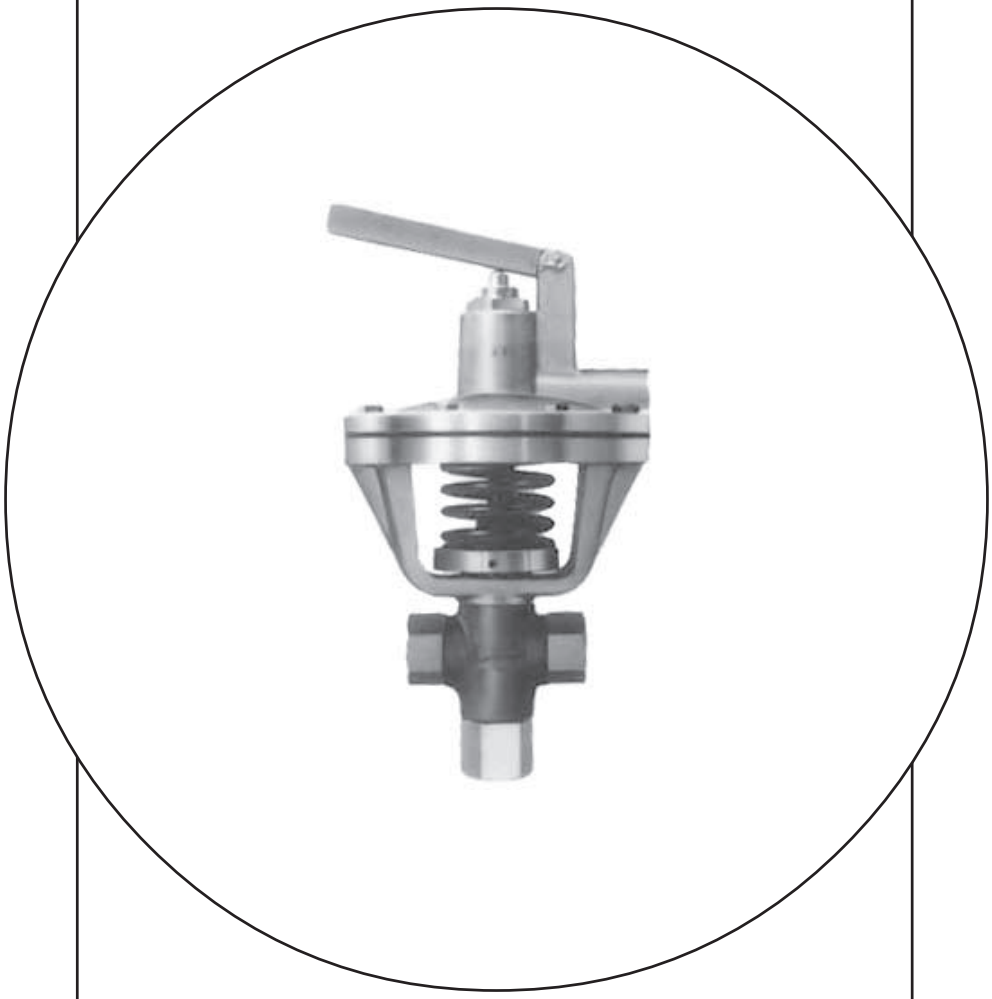
azbil

OM1-8310-0811

三方ロックアップ弁
VF03形

取扱説明書



アズビル株式会社

azbil

お願い

・このマニュアルは、本製品をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
・このマニュアルの全部または一部を無断で複写または転載することを禁じます。
・このマニュアルの内容を将来予告無しに変更することがあります。
・このマニュアルの内容については万全を期しておりますが、万一、ご不審な点や記載もれなどがありましたら、当社までご連絡ください。
・お客さまが運用された結果につきましては、責任を負いかねる場合がございますので、ご了承ください。

保証について

製品の保証は下記のようにさせて頂きます。
保証期間内に弊社の責任による不良が生じた場合、ご注文主に対して弊社の責任でその修理または代替品の提供により保証とさせて頂きます。

1．保証期間
保証期間は初期**納入時より１ヶ年**とさせていただきます。
ただし有償修理品の保証は修理個所について**納入後３ヶ月**とさせていただきます。

2．保証適用除外について
次に該当する場合は本保証の適用から除外させていただきます。
① 弊社もしくは弊社が委託した以外の者による不適当な取扱い、改造、または修理による不良
② 取扱説明書、スペックシート、または納入仕様書等に記載の仕様条件を超えての取扱い、使用、保管等による不良
③ その他弊社の責任によらない不良

3．その他
① 本保証とは別に契約により貴社と弊社が個別に保証条件がある場合には、その条件が優先します。
② 本保証はご注文主が日本国内のお客様に限り適用させていただきます。

©1993-2013 Azbil Corporation All Rights Reserved.

安全のしおり

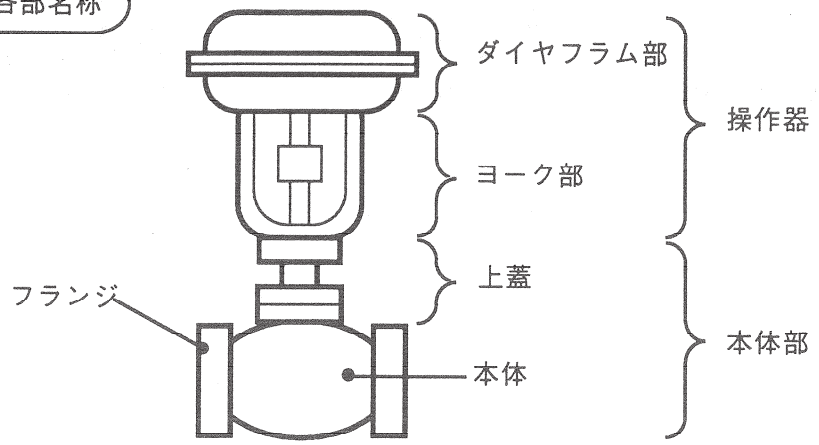
目　　次

1. 各部の名称 …… i
2. 安全上のご注意 …… i
3. バルブの仕様確認と保管 …… ii
4. 据え付け …… iv
5. 分解・組立 …… viii
6. 保守点検 …… x

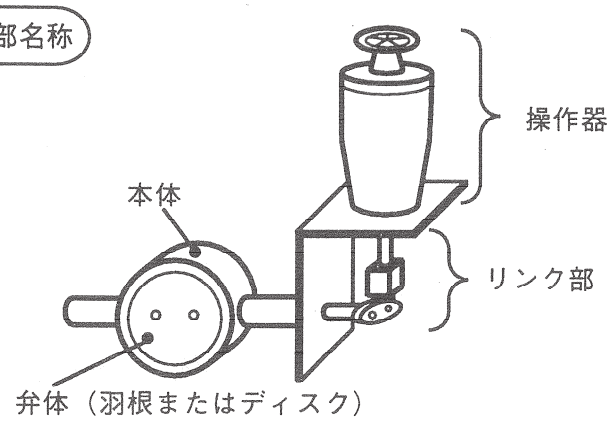
1. 各部の名称

この「しおり」に用いたバルブ名称と用語について、ご使用前によくお読みください。

グローブ弁の各部名称



バタフライ弁の各部名称



2. 安全上のご注意

●製品をご使用いただく前にこの「しおり」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項の使用に際して、人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。また、誤った取扱により生じると想定される、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すため、「警告」「注意」の二つに区分しています。いずれも、安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告　取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される内容を示しています。

⚠注意　取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される内容を示しています。

●お読みになった後は、利用される方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

3. バルブの仕様確認と保管

＜開　　梱＞

バルブは精密機器です。事故や損傷を防ぐためにていねいに扱ってください。

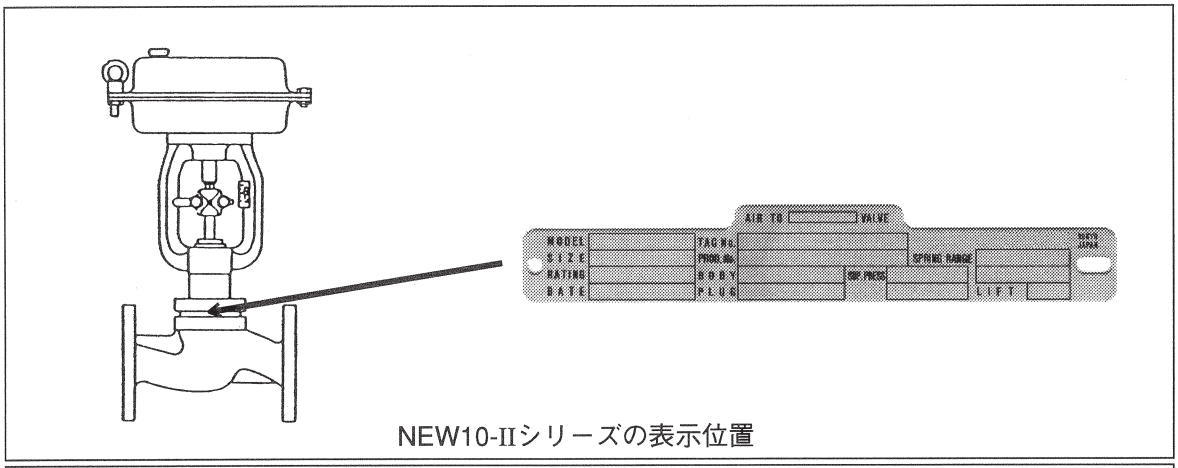
開梱にあたっては次のものが入っているか確認してください。

・購入いただいた、バルブ本体、操作器および組付け機器

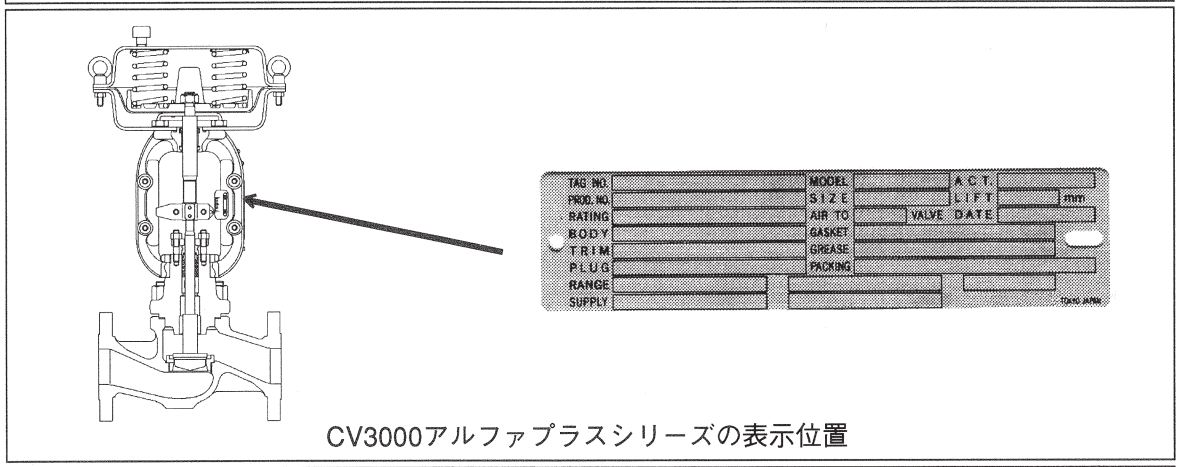
・購入いただいた、ご指定の付属機器

＜仕様確認＞

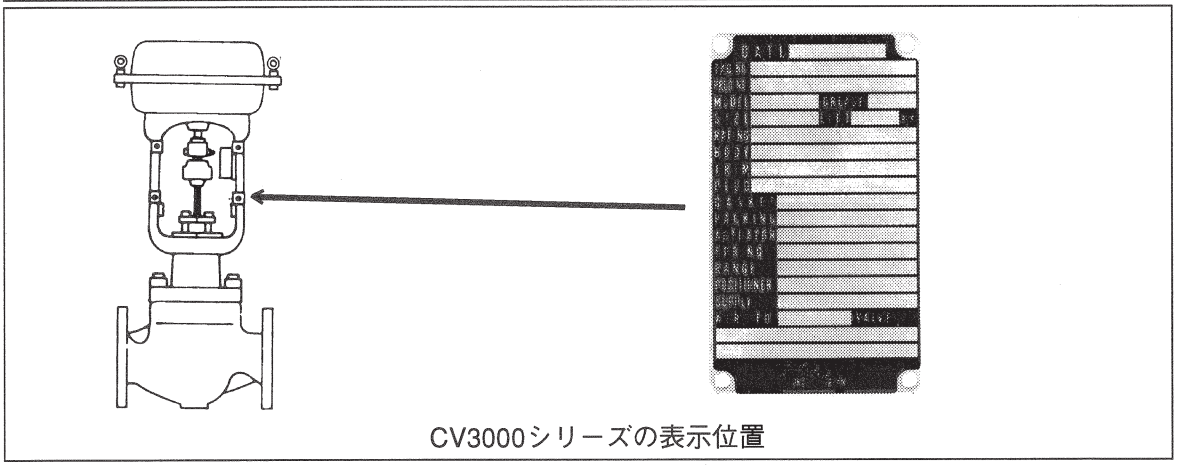
ご使用いただく流体条件、弁番号（TAG No.）と製品仕様が合致していることを確認してください。製品への銘板表示（ネームプレート）は、下図に示す位置に致しております。（下記以外の製品も下段のCV3000シリーズと同様の位置に同一の銘板を使用しております）



NEW10-IIシリーズの表示位置



CV3000アルファプラスシリーズの表示位置



CV3000シリーズの表示位置

3. バルブの仕様確認と保管

＜保管についてのご注意＞

ご購入になったバルブの保管に際して、次の注意事項をお守りください。

・段ボール箱にて梱包されたバルブは常温、常湿の屋内に保管ください。

・木枠にて梱包されたバルブも常温、常湿の屋内保管を原則とし、屋外に保管される場合は、開梱、仕様確認の後に保護用ポリエチレンシートで覆い、雨水浸入の防止を行ってください。

・一度使用したバルブの保管は、次の手順に従ってください。

① バルブ本体内部に付着または残留している流体を洗い流し、乾燥させる。

② 本体部が錆びる恐れのある場合は、防錆処置を行う。

③ 空気配管接続口、電線管接続口には防水キャップまたはテープなどで水分の浸入を防止する。また、コネクターねじ部の保護を行ってください。

④ 配管接続端（フランジ面、溶接接続面）にキズがつかないように、フランジキャップなどで保護してください。

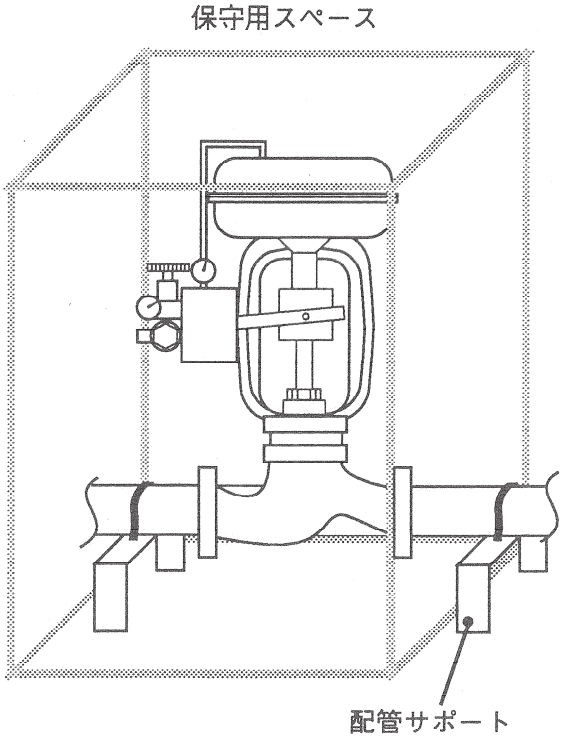
4. 据え付け

＜設置環境＞

購入いただいたバルブの設置には、次の点にご注意願います。

⚠ 注 意

- バルブの設置には安全容易に操作および保守ができるスペースを確保してください。。
- 振動や外力を受け、バルブの機能が阻害される恐れのある場所への設置は避けてください。また､適切な対策を講じてください。
- 配管がバルブの重量および操作により、過大な荷重を受けないように、バルブ自身へのサポートまたは前後配管のサポート等を考慮してください。
- 通路に面して設置され、部外者の接触する恐れのある場合は、柵やカバーを設け保護措置を実施してください。
- 雨水等による水没や、積雪による埋没、凍結の危険性がある場所への設置は行わないでください。
- 輻射熱を受ける場合は、遮へい板を設ける等の対策を実施してください。
- 塩害や腐食性雰囲気の場合は防食対策を実施してください。



⚠ 注 意

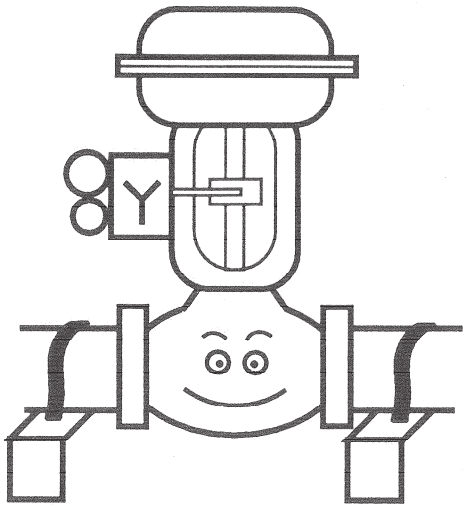
- バルブを取扱う場合には思わぬ事故を防ぐために保護めがね・保護手袋・安全靴等保護具を必ず着用してください。

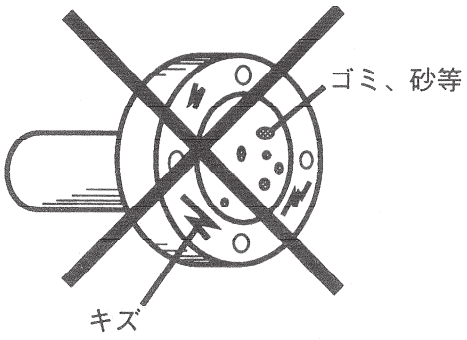
4. 据え付け（つづき）

設置前確認は、次の注意事項をお守りください。

⚠ 注　意

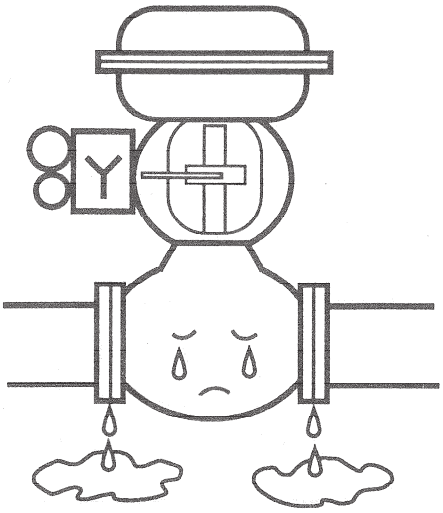
- バルブに損傷（本体部・操作器・付属機器各部）がないことを確認してください。
- 配管接続フランジまたは、溶接配管側の損傷のないことを確認してください。
- 配管側がフランジ溶接などを行っている場合は、溶接後の温度低下を確認してください。
- 配管側フランジはエッジ部の面取りを実施してください。
- 配管内部のゴミ・砂・溶接スパッタ等の異物除去と、バルブ内部の清掃も合わせて実施してください。異物の混入は弁座シート部の損傷と、弁座締切性能の劣化要因となります。
- バルブの設置の前後配管へのサポートが充分であることを確認してください。バルブの質量が加わり、フランジ接続部から外部漏洩の原因となります。





⚠ 警　告

- 定格圧力や接続規格以外での使用は、破損や漏れによる大きな事故原因となる恐れがあります。

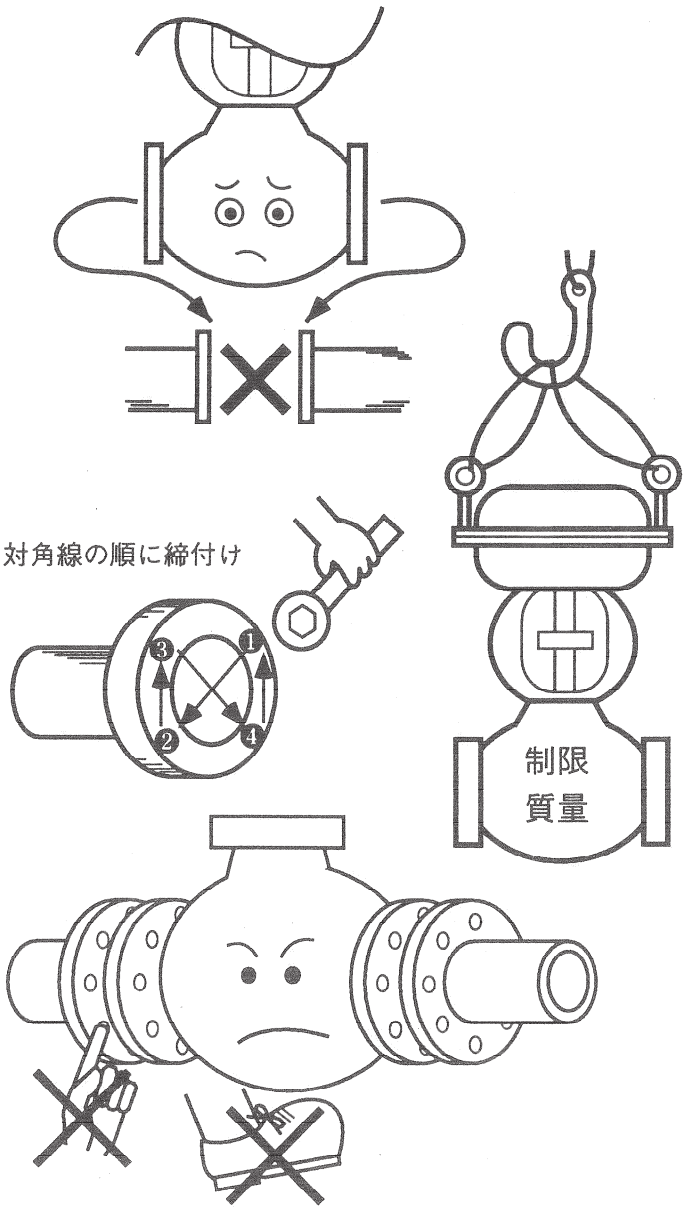


4. 据え付け（つづき）

＜設置工事＞

⚠ 注　意

- バルブ前後の配管設置が終了している場合、配管相互のセンターが正確に出ていることを確認してください。配管のズレはバルブに歪みを与え、接続面（ガスケット部）からの流体漏洩の原因となります。
- 配管フランジ間の寸法が、バルブの面間寸法にガスケット厚みを加えた値に対して適切であることを確認してください。
- バタフライ弁は弁体（羽根またはディスク）を全閉状態として配管に設置してください。
- バルブを吊り上げる際に操作器アイボルト（アイナット）を使用する場合は、取扱説明書に示す制限質量を超えないようにご使用ください。制限を超えた荷重は操作器の破損や空気漏洩の原因となります。
- 配管フランジ用ボルト・ナットは、フランジ規格に合致したものを使用してください。流体の外部漏洩の原因となる恐れがあります。
- 配管フランジ用ガスケットは、流体の性状と温度・圧力条件に合致した新品を使用してください。ガスケット破断等により流体の外部漏洩の原因となります。
- 配管内のフラッシング中は、バルブを全開として、開閉動作は行わないでください。溶接スパッタや異物によりバルブを破損する場合があります。



⚠ 警　告

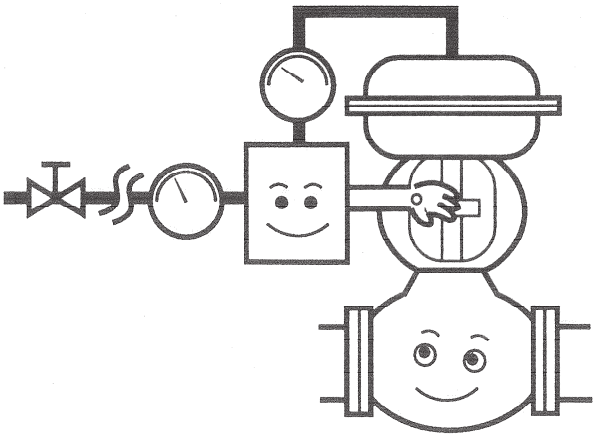
- バルブを配管に設置する際、バルブ本体の下やフランジの間に絶対に手や足を差し入れないでください。指の切断や足を負傷する恐れがあります。
- 点検整備や改造後のバルブ設置に際しては、既設配管中に残存する流体を洗浄または安全な流体へ置換してください。残存する流体による人身事故の恐れがあります。

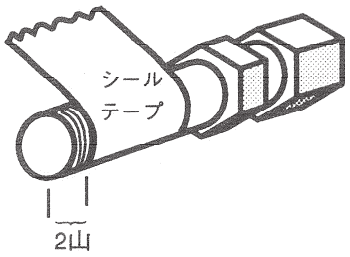
4. 据え付け（つづき）

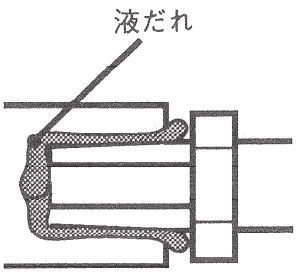
＜空気配管・電気工事＞

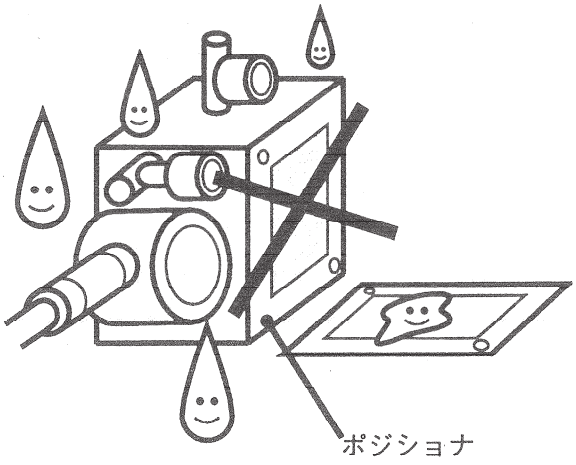
⚠ 注　意

- 空気配管はバルブ動作時に圧力低下を起こさない配管径としてください。
- 空気配管の曲がり部はゆとりを持ったものとし（専用の工具を使用する）、平行する配管はバンドで結束してください。
- 配線工事は、電気設備技術基準に従い電気工事士有資格者が行ってください。
- ケーブルの接続は設備条件に従い実施し、ケーブル仕上がり外径に適合したアダプター（パッキン）を選択してください。
- 空気配管工事にシールテープを用いる場合、ねじ先端より2山はシールテープを巻かないでください。テープ片の詰まりにより、バルブ動作不良の原因となる恐れがあります。
- 空気配管工事に液状パッキン（ねじロック）を用いる場合、配管内部へ液だれにご注意ください。バルブ動作不良の原因になります。
- 配線工事は雨天や高湿度の状態を避けて行ってください。コネクタ内や端子箱への水分の浸入は発錆と漏電の原因となります。
- ポジショナなどの付属機器の蓋部には、シールパッキン（ガスケット）が装着されています。配線工事の際の紛失に注意してください。
- ポジショナなどの付属機器の蓋の固定ねじは紛失しないように注意してください。固定ねじの締付けはシールパッキン（ガスケット）の装着を確認し、片締めにならないように均等なトルクで締付けてください。
- ケーブルねじや電線管のシール部は確実に行ない、水分の浸入のないようにしてください。









5. 分解組立

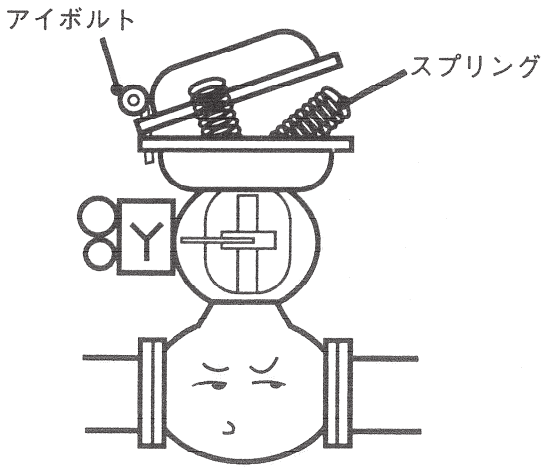
＜分解＞

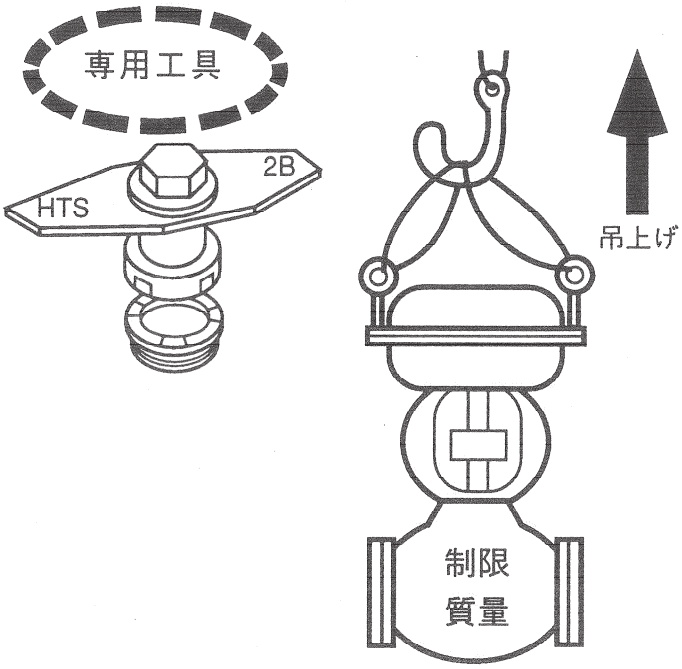
⚠ 注　意

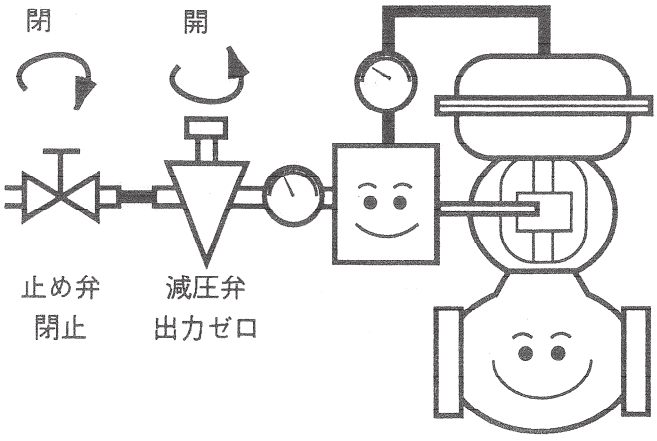
- スプリング内蔵形の操作器は、分解の手順を守りボルト・ナット類を取外してください。スプリングの飛び出しによる負傷の恐れがあります。
- 配管よりバルブを取外すとき、操作器のアイボルト（アイナット）を使用し吊り上げる場合は取扱説明書に示す制限質量以下で使用してください。落下の恐れがあります。
- トリム（内弁）の取外しを行なう場合、専用工具の要否を取扱説明書で確認し、準備してください。トリム破損の恐れがあります。

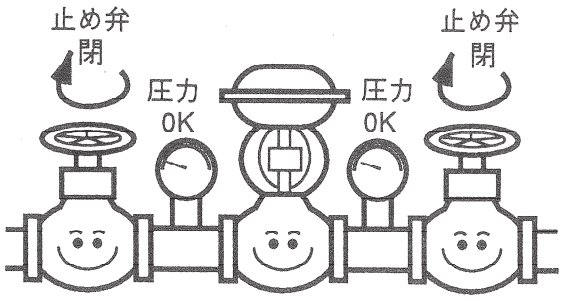
⚠ 警　告

- バルブの分解を行なう場合、配管内の圧力が大気圧力まで下がっていることを確認し、作業に着手してください。流体の噴出による人身事故の恐れがあります。
- バルブの分解を行なう際、バルブ内の洗浄や置換を行ってください。配管に残存する流体による人身事故の恐れがあります。
- 供給空気圧力を与えたままで、空気式操作器の分解を行なわないでください。圧縮空気による人身事故の恐れがあります。









5. 分解組立（つづき）

＜組立＞

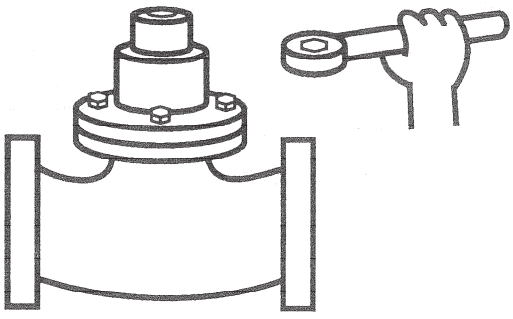
⚠ 注　意

- スプリング内蔵形の操作器は、組立の手順を守りボルト・ナット類を順次組付けてください。動作不良の原因となります。
- 配管にバルブを組付ける際は、バタフライ弁は弁体（羽根またはディスク）を全閉状態として配管に設置してください。
- 配管フランジ用ボルト・ナットの締付けは、対角線上に交互に均等なトルクで締付けてください。
- 本体部組付けの際は、新しいパッキンとガスケットを使用してください。古いものの再使用は流体漏洩の原因となります。
- トリム（内弁）の組付けは、専用工具の要否を確認し、仕様に合ったものを使用してください。

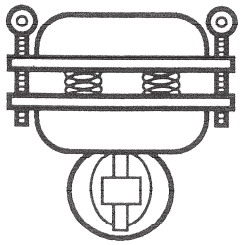
⚠ 警　告

- 組立時のボルト・ナットの締付けは、取扱説明書に規定されたトルク値を使用してください。また、ボルト・ナットの傷や腐食はバルブ破損の原因となり、人身事故の恐れがありますので新しいものと交換してください。

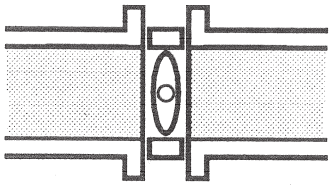
● 規定トルクでの締付け



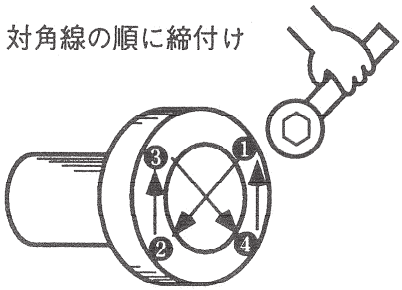
● 組立の手順を守る



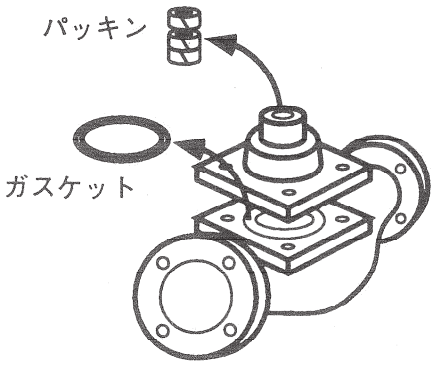
● バタフライ弁は全閉で設置



● 対角線の順に締付け



● パッキン、ガスケットの交換



6. 保守点検

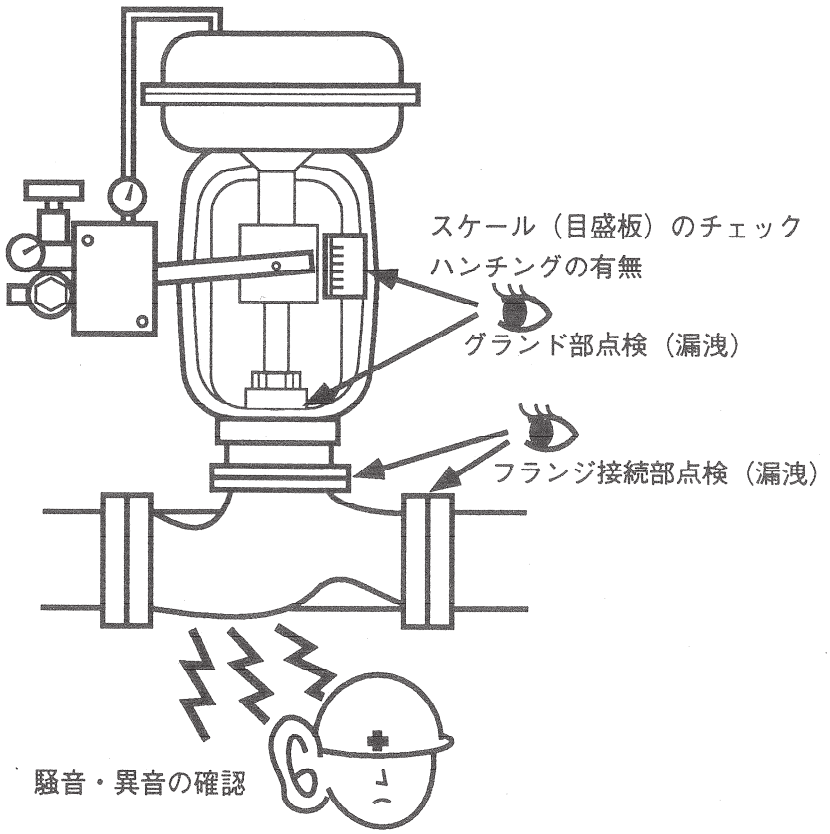
保守点検は、次の注意事項をお守りください。

⚠ 警　告

- バルブから流体の漏れを発見した場合には、安全が確認されるまでバルブに近づかないでください。流体の性状によっては大きな事故や人身事故の恐れがあります。

⚠ 注　意

- グランドの点検は日常点検として実施し、漏れのないことを確認してください。
- バルブ動作の確認は日常点検として実施し、ハンチングが発生していないことを確認してください。
- 運転中、異常な音や振動がないことを確認してください。
- バルブの分解や保守で発生した古い部品は、産業廃棄物として適切に処理してください。安易に燃やしたり、廃棄すると環境汚染の原因となります。



1. 概　　要

VF03形三方ロックアップ弁は小形の三方オンオフ弁にリセット機構のついたダイヤフラムモータを組み付けたもので、自動、手動を併用する特殊なオンオフ切替操作に使用されます。上部ダイヤフラムに動く信号空気圧とあらかじめ設定されたスプリングとのバランスにより空気ラインを切替る構造でリセットはハンドルを操作しておこないます。

2. 作動原理

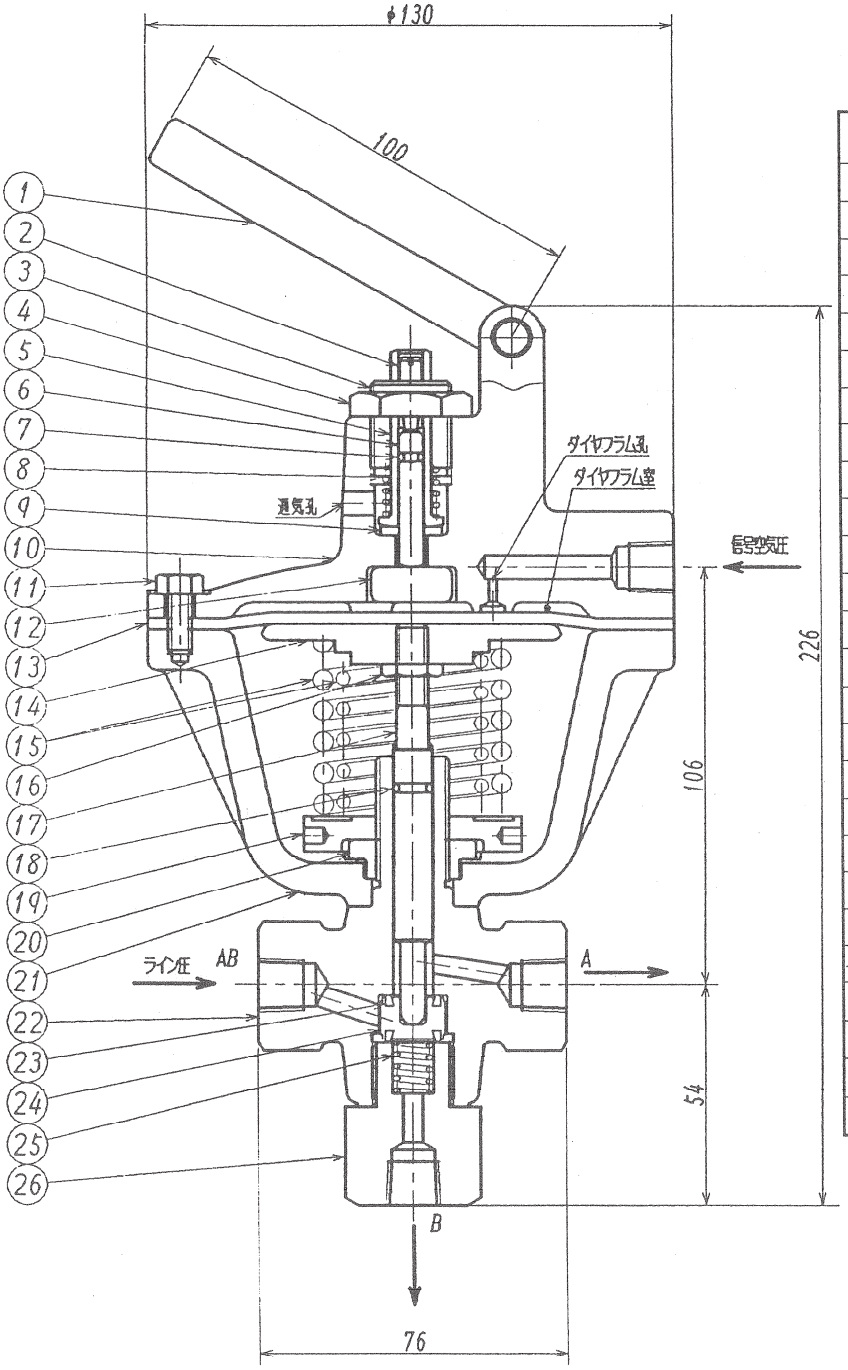
本弁はロック機構部分と本体部分に大別されます。

ロック機構の主要素はハンドル①、アジャストスクリュー②、ダイヤフラム室およびダイヤフラムスプリング⑮から成っています、ハンドル①を手動で押し下げますと信号空気圧がダイヤフラム室に導入されます。この状態ではベントシール⑨が塞がって大気とは完全に遮断されます。ダイヤフラムスプリング⑮はこのダイヤフラム室に入る空気圧を設定するのに使用します。

例えば、ダイヤフラムスプリング⑮を50kPaの空気圧に相当するだけ締め上げておきますと、信号空気圧が50～100kPaの状態では下向きに力が働いてシート保持金具㉔はステム⑰を通して下方に押しつけられ、このため流体は本体部分をAB→Aの方向に流れます。

次に信号空気圧が50kPa以下に下がりますと、ダイヤフラムスプリング⑮による上向きの力が大きくなり、スラストボタン⑫がリセットステム⑥を押し上げダイヤフラム⑬がダイヤフラム孔を閉じ、ダイヤフラム室の空気はダイヤフラムケース⑩にあけた孔を通って大気へ速やかに放出されます。この状態ではステム⑰が上方に押上げられ、シート保持金具㉔はアダプタ㉖の内部にあるバルブスプリング㉕により上方に押しつけられ、流体は本体部分をAB→Bの方向に流れます。

この状態に入った後は、再びハンドル①を押し下げぬ限りは切替点設定圧以上に信号空気圧が変わってもこのままの状態を持続します。



KEY No.	名　　称
①	ハンドル
②	アジャストスクリュー
③	ガイド
④	ロックナット
⑤	ステムハウジング
⑥	リセットステム
⑦	Oリング
⑧	ベントシールスプリング
⑨	ベントシール
⑩	ダイヤフラムケース
⑪	ボルト
⑫	スレストボタン
⑬	ダイヤフラム
⑭	ダイヤフラムプレート
⑮	ダイヤフラムスプリング
⑯	ステムナット
⑰	ステム
⑱	Oリング
⑲	スプリング受け
⑳	ロックナット
㉑	ヨーク
㉒	本体
㉓	インナーシート
㉔	シート保持金具
㉕	バルブスプリング
㉖	アダプタ

図1　三方ロックアップ弁

3. 配管方法

本体は、配管接続孔が全部で4つあります。ロック機構部分にある孔には信号空気圧を導入します。本体部分の接続孔にはそれぞれAB、A、Bの刻印がうってあります。ABはメインのライン圧孔で最大490kPaまでの圧力を導入できます。ハンドル①を押し下げたロック状態ではAB→A孔が導通し、ロックが開放した状態ではAB→B孔に切替るようになっていますから、御使用時の配管に際してはこの刻印に御注意ください。

配管接続孔は全てRc¼ねじになっています。

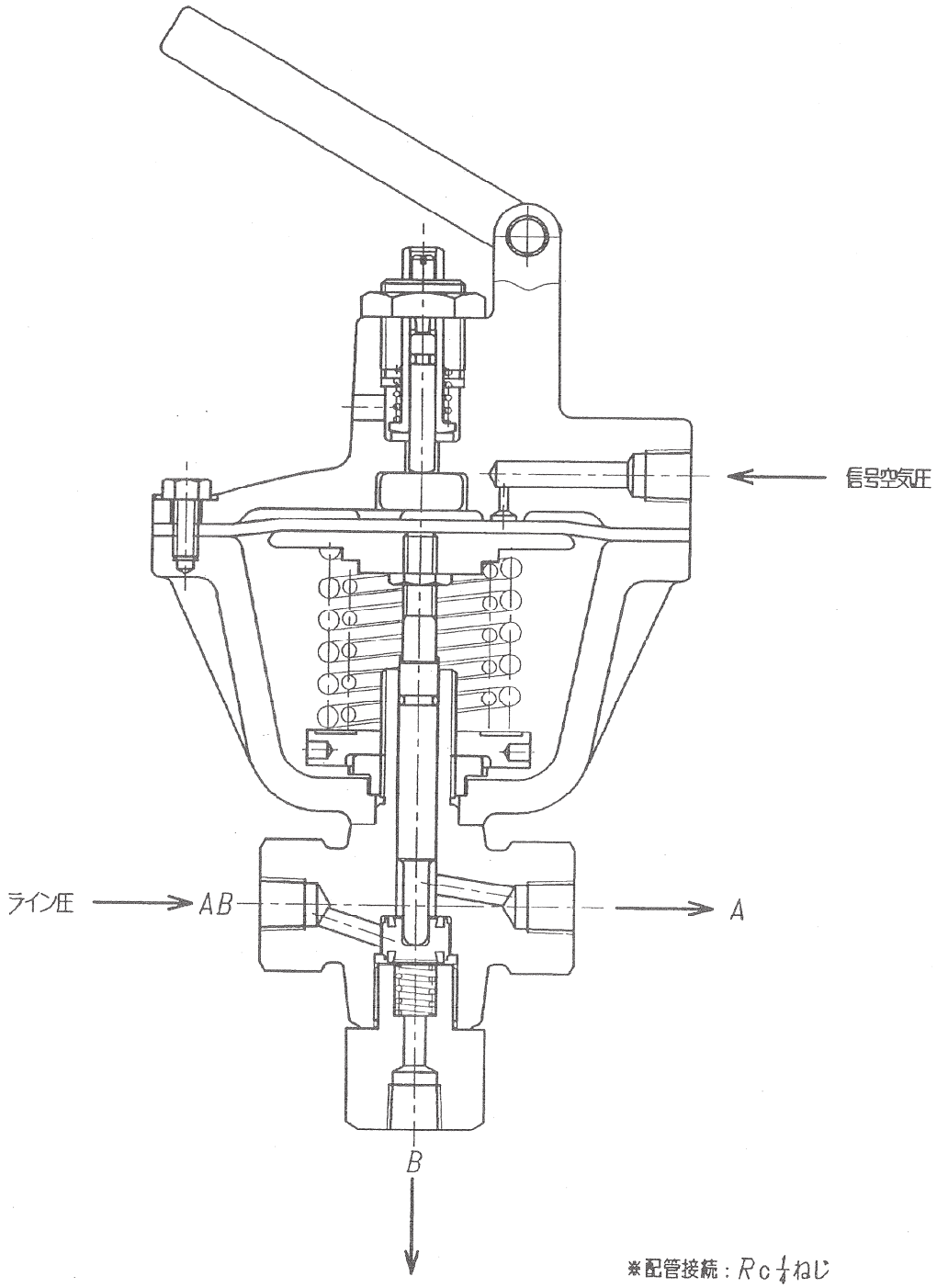


図2　空気配管指示図

4. 標準仕様

本体定格：690kPa

主要材料：

本体；黄銅

ダイヤフラム；エチレンプロピレンゴム

トリム；SUS304（ネオプレンシート付）

操作器；アルミニウム合金

ライン空気圧：490kPa

信号空気圧：20～100kPa

［最大270kPa］

切替点設定圧可変範囲：40～80kPa

不感帯：10kPa以内

空気配管接続：Rc¼ねじ

周囲温度範囲：－30～＋80℃

5. 組立・調整・分解

5－1　組立・調整

	組　立・調　整	備　　考
a)	ヨーク㉑と本体㉒とを組み付けます。Oリング⑱を入れたステム⑰を本体㉒に差し込みステム⑰がシート保持金具㉔に当たらぬ程度に上から手で軽く押し付けます。（ステム⑰を差し込む代わりに指で本体孔を塞いでもよい）この時A孔より490kPaの空気圧を加えた場合、AB、B孔より空気が漏れないようにします。	もし漏れがある場合はシート保持金具㉔のインナーシート㉓が本体座金に正確に接着していないためで、座面の仕上げまたはインナーシート㉓を修正します。
b)	AB、B孔からの漏れがなければ、次にヨーク㉑にダイヤフラムケース⑩を組み付けます。	但し、この場合はダイヤフラムケース上部のガイド③、アジャスタスクリュー②、ステムハウジンク⑤は取り外しておきます。
c)	信号空気圧孔より100kPaの空気圧を加え、ダイヤフラムケース孔からの漏れの有無を確かめます。	漏れがあればダイヤフラムスプリング⑮を1回転以内で締め上げます。なお漏れが止まらなければダイヤフラムケース⑩の孔またはダイヤフラム⑬の当たりを修正します。
d)	ダイヤフラムケース孔からの漏れが完全に止まれば、本体㉒とダイヤフラムケース⑩を組み付けた状態でAB、B孔からの漏れを再度確かめます。	もし漏れがあれば、ステム⑰が長過ぎ組み付け時にシート保持金具㉔を押し下げて漏るのですから、この場合はステム⑰とダイヤフラムプレートねじ込み部を調整してステム⑰を短くします。そしてd）の調整を繰り返します。
e)	AB、B孔、ダイヤフラムケース孔からの漏れが完全に止まったならば、次にガイド③、アジャスタスクリュー②、ステムハウジング⑤を組み付け、適当なところまでガイド③をねじ込んだのち、アジャスタスクリュー②を押し下げていきます。この時、ダイヤフラムケース孔からの漏れを石鹸水にて検査し、漏れの始まる瞬間までアジャスタスクリュー②を押し下げます。	
f)	アジャスタスクリュー②を漏れ始めの手前でセットしたのち、ハンドル①を押し下げます。	この時、A孔からAB孔に空気圧が放出されるのが正常な状態です。もしB孔から漏れがあるようならばそれはd）のステム調整で、ステム⑰が短くなりすぎステム⑰の先端とシート保持金具㉔との間に遊びができ、そのためハンドル①を押し下げた時にシート保持金具㉔が完全に押し付けられず中に浮いた状態になっているからです。この時は、アジャスタスクリュー②の方はそのままにし、本体㉒とダイヤフラムケース⑩を分解してステム⑰を適当に長くしてやる必要があります。ステム長さの調整にあたっては、本体㉒とダイヤフラムケース⑩を組み付けた時ステム⑰の先端とシート保持金具㉔との隙間をできるだけ小さくするように注意します。
g)	以上ステム⑰の調整をB孔からの漏れがなくなるまで行います。 漏れが完全に止まった後は、ダイヤフラムスプリング⑮の締め上げの調整だけでロックアップの設定点を選ぶことができます。	

5－2　分　　解

分解は組立の逆順序に従ってください。

注：　本資料に記載している「法定計量単位」以外の「非SI（単位）」の取扱い
「非SI（単位）」の使用有効期限：新計量法に基づく使用猶予期限まで（使用猶予期限以降は無効です）

宛：当社担当者→マーケティング部

マニュアルコメント用紙

このマニュアルをよりよい内容とするために、お客さまからの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。お手数ですが、本シートにご記入の上、当社担当者にお渡しください。
ご記入に際しましては、このマニュアルに関することのみを具体的にご指摘くださいますようお願い申し上げます。

資料名称： 三方ロックアップ弁 VF03形　取扱説明書	**資料番号：** OM1-8310-0811　第5版

お　名　前		貴　社　名	
所 属 部 門		電 話 番 号	
貴 社 住 所			

ページ	行	コ　メ　ン　ト　記　入　欄

当社記入欄

記事		受付No.	受付担当者

資 料 番 号　OM1-8310-0811
資 料 名 称　三方ロックアップ弁
VF03形　取扱説明書

発 行 年 月　1993年 6 月 初 版
改 訂 年 月　2013年 3 月 第5版
発 行 / 制 作　アズビル株式会社

アズビル株式会社